

第4回千代田区文化財保存活用地域計画策定委員会 議事録

日 時：令和5年4月27日（木）午前10時～12時

会 場：千代田区役所 本庁舎（4階第401室）

出席者（敬称略）：

委員

【学識経験者】

谷川 章雄	瀬戸口 龍一	三友 奈々
山崎 鯛介	菊池 健策	
齋藤 慎一	田中 晴子	

【文化財保存活用支援団体】

鈴木 宏昌	三田 雅康
伊藤 栄司	深野 恵津子

【文化財所有者】

高原 聖司

オブザーバー

宮前 功	小野口 史恵
------	--------

行政委員

佐藤 尚久	岩崎 智和（商工観光課代理）	久保山 大翔（企画課代理）
加藤 伸昭	前田 美知太郎	
小玉 伸一	江原 達弥	

事務局

古橋 秀介	山田 将之
高木 知己	篠原 杏奈

配付資料：次第

令和5年度委員名簿

資料1 千代田区の歴史文化の特徴(抜粋版)

資料2 千代田区の歴史文化の特徴(詳細版)

資料3 地域区分と時代区分の関係(歴史文化の特徴)

資料4 本計画の対象者

資料5 年間の予定について

議事内容

1 ごあいさつ ―文化スポーツ担当部長―

文化スポーツ担当部長佐藤よりあいさつ

2 委員紹介（変更部分のみ）

～事務局より、令和5年度委員、本日の出席委員について説明～

3 会議の公開について

～事務局より、会議の公開について諮問～

4 議題

～事務局より、配布資料について確認～

（1）地域計画第4章(仮)千代田区の歴史文化の特徴について【資料1、2、3】

～事務局より、千代田区の歴史文化の特徴について説明～

【谷川委員長より資料の補足】

（谷川委員長）

- ・もう少し具体的にイメージを持っていただくため、有識者の先生方からもコメントをいただきながら補足する。時代については、人類が千代田に登場して以降というイメージで、下限は特に設けず、差し当たって現在までと考えている。地域については、時代ごとの区分の変化について議論が詰められていないため、歴史文化の特徴に地域的な偏りがないように現代の地域区分との関係を示している。その上で、「時代」「地域」「テーマ」の3点を念頭に置きながら、「歴史文化の特徴」として7つの項目が整理されている。そのため、必ずしも時代の順番ではなく、あくまで切り口として提示していること、また、近隣区とは異なる千代田区の特徴という独自性で内容を検討していることをご理解いただきたい。

【（1）「都市になる以前のくらしと地形・環境」に関する補足や意見】

（谷川委員長）

- ・（1）については、江戸時代の武家屋敷から弥生時代の遺跡が出てくることがあるように、発掘調査を進める中で古い時代のことも分かってきたという背景がある。一般的にはあまり知られていないが、千代田区内には旧本丸西貝塚などの縄文時代の遺跡も存在する。また、溜池山王駅の周辺には縄文時代に形成された地層があり、その調査・分析を行ったことで約8,000年前からの環境の変化も分かっているため、そのような歴史を辿るものがあることも打ち出せると良い。

(齋藤委員)

- ・古い時代の視点という意味で、文献上では平安時代末期から考えることができる。また、国立近代美術館周辺の発掘調査では、古墳時代以来の特殊な遺物が出てきており、おそらく当時の中心的な場所であったことが分かり始めている。具体的な様相が見え始めるのは15世紀後半の太田道灌の頃からであるが、文献資料や断片的な考古資料、文学資料などから、千代田がかなり華やかな場所であったことや、太田道灌が中国の西湖の要素を日比谷入江に取り入れようとしたことなども分かり始めている。

【(2)「近世最大の城郭江戸城を中心とした都市の姿」に関する補足や意見】

(谷川委員長)

- ・江戸城が近世城郭の到達点として最大の規模を誇り、これが千代田区の大きな文化的・歴史的特徴であることは間違いない。現在は東御苑のエリアが公開されているが、遺構もきちんと残っている。発掘調査では、明暦の大火で江戸城が焼けた時の瓦礫の類なども確認されている。また、皇居の自然や江戸城を巡る景観も千代田区にとって非常に重要な要素となる。

(三友委員)

- ・皇居の自然や江戸城を巡る景観は、現代の日本を代表する都市景観と近接していることも特徴であり、その両方に配慮しながら地域計画をまとめていく必要があると考える。また、あまり詳しくない一般の方にもどの時代なのかが分かるような地域計画のまとめ方が必要である。

(谷川委員長)

- ・江戸城そのものの重要性と共に、過去の城郭が今の景観を作っていることに非常に意味がある。石垣などのほか、特に江戸城に関しては、外堀の牛込門などの遺構も残っているため、それらが今の景観の中に位置付けられることを認識しなければならない。

【(3)「城下町江戸から首都東京へ」に関する補足や意見】

(谷川委員長)

- ・(3)については、江戸から明治にかけての変化で特徴を分断せずに、時代間の繋がりを意識して示している。

(山崎副委員長)

- ・城というコアな部分が(2)で、その外側に広がる都市の部分が(3)となっているが、江戸と明治の暮らしの繋がりは不連続でありながら、インフラ的には連続していると捉えることができる。(6)に関連する関東大震災の災害復興では地区改正により江戸の町並

みが段階的に近代化されていくことになるが、その時点までを江戸東京として繋げて捉えるという考え方が（３）になっている。ここでは、どのように江戸を継承したのかという部分でストーリーが描けるのではないか。

【（４）「都市の祭りと祈り」に関する補足や意見】

（菊池委員）

- ・ 祭礼は、その形態が変化しながら伝承されているということを念頭に置く必要がある。神田祭や山王祭においても過去に使われていた屋台等は現在ほぼ出ていないため、その扱い方が課題になる。

【（５）「都市の生業」に関する補足や意見】

（谷川委員長）

- ・ （５）については、生活の問題が含まれる。特に、神田地域は職人が多いと言われていることをきちんと位置付ける必要がある。また、近代は出版業などが非常に盛んになったことから産業が発展したことも踏まえる必要がある。

（瀬戸口委員）

- ・ 都市の生業は（３）や（７）と重なる部分が出てくるため、棲み分けが難しい。地域区分も近世から近代にかけて切り替わるところが出てくるため、ここでは先ほどの神田地域に職人が多いといった話についてはきちんとした検証が必要である。
- ・ 近代の千代田区の特徴として、大学を含む「学校」というものが比較的早い段階で出てくる。その中で学者や学生によって生み出される文化や芸術といった特徴もあるが、浮世離れしてしまう部分もある。一方で、出版業や映画館などの要素についても近代における千代田の特徴の一つと言えるのではないか。

【（６）「都市の災害と復興」に関する補足や意見】

（谷川委員長）

- ・ 都市というものは、災害によって変化が加速する側面がある。千代田では江戸時代の明暦の大火で江戸の大半が焼けたことにより、町の拡大が加速したと考えられる。また、関東大震災では、江戸という文化の命脈が絶たれることになるが、逆に言えば震災までは江戸が生きていたとも言える。これまでは、復興について十分に取り上げられてこなかったため、都市の歴史の中で非常に重要な側面と考えている。

【（７）「都市から発信される文化と芸術」に関する補足や意見】

（田中委員）

- ・ （７）は、他の特徴で取りこぼしがあった部分をまとめ、より具体的にしたものであると

認識している。岩波ホールやカザルスホールの閉館の他、コロナ禍で変化した人々の意識などに関連した部分も残していく必要があるのではないか。また、東京駅周辺にある静嘉堂文庫美術館や、三菱一号館美術館、K I T T E内のインターメディアテク、また、竹橋の東京国立近代美術館などの施設が立地していることも特徴である。古書店街や駅街においても、どこまでを文化として保存すべきかという議論の中で、千代田区ならではの特徴を取りこぼし無く考えていく必要がある。

【行政の支援について】

(高山委員)

- ・商業文化の継続は難しい部分が多い。神保町を中心とした古書店街は、建替えの時期を迎えているが、採算性を考えると実施が難しい。岩波ホールやカザルスホールについては地域としても復活してほしいと思っているが、企業が単独で維持していくことは難しいため、文化行政として区から支援をいただけないか。文化を続けていくためには、行政の支援がどのように関わってくるかが商店街としても大きな課題である。

【守るべき景観、写真・レコード等について】

(深野委員)

- ・(6)に関連して、千代田区では防災や広場の整備といった観点から建物の高層化などが行われているが、それによる景観破壊を懸念している。最近では、日比谷公園の再生整備計画の話題が出ていたが、日比谷公園は明治期に最初に作られた西洋式の公園であるとともに、人々の憩いの場として長年親しまれている場所であるため、商業施設等から橋を架ける等の整備が果たして千代田の景観として美しいものなのか疑問である。

(谷川委員長)

- ・日比谷公園や新宿御苑は、本来は国指定になるものだと思っているが、東京都の建設局が了解していない。これらのような都市公園のあり方の変化についても意識する必要がある。

【千代田区がどのように文化を守っていくべきか】

(深野委員)

- ・(7)の文化芸術に関連して、以前も意見があったと思うが、出版や映画だけではなく写真やレコードなども守るべきではないか。例えば、明治期の江戸城の写真や玉音放送のレコードなど、区ではなく国の文化財にもなるかもしれないが、千代田区内には所在しているため、それらも含めて議論いただきたい。

(三田委員)

- ・私が勤めている百貨店について、商業ビルが売り払われて家電量販店になるかもしれない

という状況を「文化」が助けてくれている。亡くなられた高野区長をはじめ、住民の皆さんから「文化」というものに支持をいただき、残してほしいという動きに繋がっている。渦中のため結果はまだ分からないが、「文化」というものは、即効性は無くとも後々ボディブローのように効いてくる。私がお願いしたいことは、千代田区がどのように文化を守っていくべきかきちんと打ち出していくことである。きちんと千代田区が文化を守りながら、将来的には美術館や博物館などの設置についても視野に入れていくことを（７）では強調したい。

（谷川委員長）

- ・地域計画は、千代田区がこれからどのように文化財を保存・活用していくのかという行政計画であり、最終的には文化庁が認定する。方針に基づいて短期的に実施する部分と、中長期的に実施する部分を切り分けながら、これまでの千代田区の経験を踏まえ、さらに一歩進めるようなものとする必要がある。

【歴史文化への関心、教育について】

（鈴木委員）

- ・住民の立場として、代々引き継いできたものが崩れてしまうことや、物件があっても自分は遠くに住んでしまっているといったケースが非常に多くなっている。住民は文化を守ろうという意識までは持っていないため、文化に対し住民が再度関心を持ってもらうところから始める必要がある。その一つとして、高速道路の高架下で暗くなっている雫子橋の周辺を、住民や外部の方に関心を持ってもらえるよう明るく目立つように整備するといった取組を考えた方が良いのではないか。

（伊藤委員）

- ・（５）の教育機関に関連すると、千代田区内には明治５年の学制前後でできた学校が多くある。学校の立場としては、千代田が近代教育の発祥の地であることを子ども達に話すが、その際に皆で自信を持って勉強していきましょうという投げかけにつながると良い。
- ・（６）の災害に関連すると、防災教育では一般的に地震が発生したときに関する勉強を行っているが、千代田の昔の人々が災害からどのように逃れていたのかという歴史に学びながら現代に繋げる形の教育もできると考えており、学校の立場としては注目したい。
- ・先ほどの住民に興味を持ってもらうという点では、学校だよりなどを通じて歴史や場所について取り上げ、発信をしていきたい。

【歴史文化の特徴について行政委員よりコメント】

（佐藤部長）

- ・時間軸で言えば、昭和以降の学校の統廃合により旧校舎が壊され、新しい校舎が建ってい

る歴史がある。こういったものは、建物は無くとも記憶に残していくことが大切ではないか。近代化に伴い保存すべきものを記憶に残すという意味では、行政が進めている新たなDXなどの知見と上手くマッチングしていければと考えている。

(加藤)

- ・古書店街の文化については、大きく商店街の振興として考えるかどうかは検討の余地があるが、文化振興課としては文化芸術の部分をどのように捉え、千代田区としてどのように打ち出すのか。有楽町の映画館や岩波ホールに関する課題や、美術館や博物館に対する支援について、計画の中にどのように落とししていくのか考えていきたい。

(小玉)

- ・皆様の意見を聞き納得した点として、表題を変えただけで近隣区にも通じるものではなく、千代田区ならではのものを作り上げること。もう一つは、千代田区ならではのものを取りこぼすことなく扱うこと。岩波ホールやカザルスホール、写真やレコードもといった意見もその通りだと思った。これらは歴史の中で脈々と引き継がれてきたものであり、大切に必要がある。
- ・教育委員会事務局の立場としては、千代田区の歴史文化は非常に特徴のあるもので、全国的に誇れるものである。そのため、児童や生徒も誇りに思い、自分たちが素晴らしいところに住んでいて、自分たちもそういった歴史や文化を遺産として引き継いでいくんだという意識が持てるようなものを作っていければと思う。

(岩崎)

- ・歴史文化には様々なものがあるが、それを「時間」「空間」「テーマ」という切り口で7つにまとめられていて、分かりやすいと思った。
- ・商工観光課としては(4)と(5)が特に関係が深く、今年3月に千代田区が産業振興基本計画を策定していることから、今後も歴史的な文化を踏まえて取り組んでいくという意味で計画の中に含めていただいてありがたい。

(前田)

- ・地域の中で様々な課題があることを認識した。景観・都市計画課の立場としては、更新の時期を迎えている千代田区の景観をどのように守りながら、地域の課題を解決する都市計画を進めていくか日々考えているが、神保町の機能更新については様々な検討をしなければ今の街並みを維持できないという課題を認識している。
- ・また、災害から都市計画ができたという点は事実である。今後も大地震などの災害の発生に備え、都市計画を進める必要がある。一方で、景観・文化資源をどう守っていくかという観点も持つ必要がある。

(江原)

- ・地域まちづくり課としては、まちづくりは個々でやっているものではないということが非常に重要である。古書店街などの財産をエリアとして維持していくためには、まちづくりからのアプローチが可能となる仕組みを作っていく必要がある。まずは、そのエリアで守るべきもの、維持すべきものを認知し、計画での位置付けを持って課題を解決する。建物更新においても、エリア全体の価値を上げていく仕組みを作っていくことが必要である。

(久保山)

- ・地域計画では、行政が文化をどう守っていくのかを打ち出すことは当然大切であるが、文化に関心や誇りを持ってもらうことも大切な部分である。企画課として、こういった計画を策定する中で、住民の意見を踏まえた視点を持ちながら取組を進めていきたい。

(小野口委員)

- ・オブザーバーとして、会議を通じて現場として今後できることについて考える機会を得られている。岩波ホールに関しては、現場の人からもまさか閉まると思っていたという話があり、日比谷図書文化館としても岩波ホールから依頼のあったパンフレット類の保存活用について検討を進めていた矢先であった。しかし、今後もそういった施設から図書館を通して保存活用もできるのではないかと考えている。

(谷川委員長)

- ・一通りご意見を頂き、今回お示した千代田区の歴史文化の特徴に関する7つの項目については、了解をいただいたということで進めて行く。教育委員会だけでなく、関係部署と連携しながら計画を実施することが大事である。

(2) 地域計画序章(仮)本計画の対象者について【資料4】

～事務局より、本計画の対象者について説明～

【谷川委員長より資料の補足】

(谷川委員長)

- ・本計画の対象者については、可能な限り広く関わっていただくため、在住者や在勤者だけではなく様々な方を含めて設定している。また、資料では、既に様々な形で行われている活動の事例を示しているが、抜けや活動のあり方などについてご意見があれば頂きたい。

【対象者の交流、関わり方について】

(高山委員)

- ・本計画の対象者で考えると、商店が、在住者をはじめ、在勤者や観光客との交流の結節点

になっている。その商店が無くなると交流する場所も無くなってしまうため、商店や商店街の責任も大きいと感じている。

- ・また、「一神町会」では昔、周辺の地上げによって長く住んでいた方がどんどん出て行ってしまったことがあり、その際に「一神むつみ」という組織を作った。これは転出した方にも任意で加入いただき、町会や千代田区の様々な行事をお知らせするもので、特に神輿の際に集まってもらう目的もあった。昔住んでいた方が引き続き地域に関わることができる形になっているため、その辺りも対象者であると思っている。

【対象者の区分について】

(深野委員)

- ・千代田区には6万6千人ほどの在住者がおり、かつ昼間人口は90万人以上になるという東京でも特殊な区である。当然様々な人を巻き込まないといけないが、区別は必要である。例えば、私が住んでいるマンションでは、理事会の中で区分所有者と賃貸という区別があり、総会などでは賃貸の方には議決権がない。町会活動では、古くから住まわれている方々が主に運営していることからオープンにはなっておらず、誰もが入れる環境ではない。日本テレビの再開発問題では、区で行われた意見募集で約3千票の意見が集まっていたが、新聞記事では実際の住民の意見はその内の500～600票で、その他はおそらくゼネコン等による動員であると考えられている。住民としてはそういうことが起きてしまうと、本当に住民のためになっているかという不安がある。また、小学校では現在給食の無償化が叫ばれているが、千代田区の小学校の多くは住民だけでなく越境で通う児童も多いため、区に税金を払っている住民としては区外の子どもも対象となることに意見もある。理想論であるが、全部を含めると弊害もあるということも踏まえ、バランスを取る必要がある。

(谷川委員長)

- ・計画の対象者は、必ず取組に参加するということではない。例えば、文化財の保存活用に関する団体を作る場合にも、参加のあり方には緩やかなグラデーションがある。様々な人たちを混ぜ込むと弊害を生むという意見はよく分かるが、あくまで一義的に対象にすることである。実際には様々な関わり方があり、そこは上手く調整していくしかなく、既に行われている活動などの経験も蓄積させながら、良い点を伸ばしたり新たなものを作ったりするという考え方が良い。

(三田委員)

- ・前回もお話したように、私は対象者を限定する必要がないと考える。例えば、クラウドファンディングなどを通してお金を払ってくれるのであれば大歓迎であるため、対象者を明確に区分しない方が良い。一方で、区に様々な人がいることは特徴として押さえる必要がある。

(鈴木委員)

- ・資料には千代田区のファンという考え方も書かれている。活動の回数を重ねていくうちに徐々に人数が減ってくることもあるが、その回数を増やしていけば、取組の方向性についての意見も上がってくるのではないか。最初は限定せずに大まかなところから始め、徐々に対象を絞って意見交換会などに展開していくと良い。

【在学・在勤者について】

(瀬戸口委員)

- ・近年は大学でも様々な形で地域に関わろうとする動きがある。高山先生にご協力いただいている商店街の方々への聞き取りなども含め、各大学が地域振興に資する社会貢献や、地域について研究する講義などを行っている。
- ・ただ、その取組に学生がついてくるかという問題が次にある。専修大学や明治大学、日本大学などの学生は千代田区に4年間通うことになるが、その中で地域に関心を持つ学生がどれほどいるか。近年は自分の生活で精一杯な学生が増えており、町を歩くという余裕を持たない学生も多い。大学としては今後も取組を積極的に行い、その関わりの中で文化財や千代田区についてきちんと知ってもらうことが重要である。

(伊藤委員)

- ・10ページの「歴史文化資源マップ」を活用した子ども向けのホームページなどを作ってもらえると良い。子どもたちは今1人1台タブレットを所有しているため、自分で調べて学ぶという教育ができる。
- ・千代田区は区外から社会科見学等で訪れる場所になっている。例えば、事前に子どもホームページのようなもので千代田区のことを学び、実際に見に行ってみることで、将来的に千代田区で働きたいと思ってくれる子どもたちが育つと良い。そういった工夫ができるよう、千代田区のファンの考え方に「社会科見学」などの要素を入れてはどうか。

【民間の企業・団体について】

(田中委員)

- ・東京ステーションギャラリーでは、区民の方を優先して鑑賞会の募集や時間外の案内などの取組を行っている。博物館や美術館は、地域の方との交流も名目として掲げていることから、参加者と一緒に何かできないかと考えている。各館で協力しながらこうした取組を行う中で千代田区に対して愛着を持ってもらうことで、千代田区に関連するものを発信するといった関わり方もあるのではないか。

(谷川委員長)

- ・属性と役割は必ずしも1対1で対応するものではなく、在住者や観光客の中でも様々な関

わり方がある。そのため、属性と役割の対応は固定せず、緩やかなネットワークで皆が楽しく関わるができる仕組みや事例を示していくことが重要である。

- ・現実の取組の方が先行し、我々が知らない可能性もある。事務局でも具体的な事例をもう少し集めていただき、先生方からも情報をお寄せいただきたい。
- ・対象者に関してはもう少し具体的にブラッシュアップを図るが、基本的な考え方については了解をいただいたということで進めさせていただく。

5 その他

～事務局より、連絡事項などについて説明～

【今後のスケジュールについて】

(谷川委員長)

- ・順番が大事であるが、スケジュール的にはかなり厳しい。しかし、作成する以上はスケジュールありきではなく、都心で初の地域計画として各区に示すことができる、将来に残るようなものをぜひ作りたいと思っているため、今後とも宜しく願いたい。

(宮前氏)

- ・計画に関しては、都心の先行事例となるため、文化庁も非常に注目している。谷川先生がおっしゃったように拙速なものでは困るが、区の希望するスケジュールで進められるよう我々の方もサポートしていきたい。

以上